課題 ガウス素数

ガウス素数を求めて表示するプログラムを作成せよ.プログラムは以下の仕様を満たすようにすること.

- 1. $get_command_argument$ などを用いてコマンドライン引数として正の整数 n を受け取る.
- 2. 実部および虚部が $-n \le i \le +n, \ -n \le j \le +n$ の範囲のガウス整数について,ガウス素数を判定する.
- 3. ガウス素数の位置には1を,そうでない位置には0を出力する.

実行例は例えば以下の通り:

```
1:
   $ ./a.out 5
2:
   0 1 0 1 0 0 0 1 0 1 0
   1 0 0 0 1 0 1 0 0 0 1
3:
   0 0 0 1 0 1 0 1 0 0 0
4:
   1 0 1 0 1 0 1 0 1 0 1
5:
6:
   0 1 0 1 1 0 1 1 0 1 0
    0 0 1 0 0 0 0 0 1 0 0
   0 1 0 1 1 0 1 1 0 1 0
8:
9:
   1 0 1 0 1 0 1 0 1 0 1
10:
   0 0 0 1 0 1 0 1 0 0 0
   1 0 0 0 1 0 1 0 0 0 1
11:
   0 1 0 1 0 0 0 1 0 1 0
12:
13:
14:
   $ ./a.out 10
   15:
   1 0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 1
16:
17:
    0 0 0 1 0 1 0 1 0 0 0 0 0 1 0 1 0 1 0 0
18:
   19:
20:
    0 0 1 0 1 0 1 0 1 0 0 0 1 0 1 0 1
                             0
   0 1 0 0 0 1 0 0 0 1 0 1 0 0 0 1 0 0 0 1 0
21:
22:
   0 0 0 1 0 1 0 1 0 1 0 1 0 1 0 1 0 1
23:
24:
   1 0 0 0 1 0 1 0 1 1 0 1 1 0 1 0 1 0 0 0 1
25:
   26:
    1 0 0 0 1 0 1 0 1 1 0 1 1 0 1 0 1 0 0 0 1
27:
    0 0 0 1 0 1 0 1 0 1 0 1 0 1 0 1 0 1 0 0
28:
    29:
   0 1 0 0 0 1 0 0 0 1 0 1 0 0 0 1 0 0 0 1 0
30:
   32:
33:
    0 0 0 1 0 1 0 1 0 0 0 0 0 1 0 1 0 1 0 0
34:
    1 \;\; 0 \;\; 0 \;\; 0 \;\; 0 \;\; 0 \;\; 1 \;\; 0 \;\; 0 \;\; 0 \;\; 0 \;\; 0 \;\; 0 \;\; 0 \;\; 1 \;\; 0 \;\; 0 \;\; 0 \;\; 0 \;\; 1
    35:
```

gnuplot を用いて以下のように表示すると美しい幾何学模様が得られる.

```
1: $ ./a.out 20 > data.data
2: $ gnuplot
3: gnuplot > set palette gray negative
4: gnuplot > plot 'data.dat' matrix with image
```

ガウス整数とガウス素数の定義

以下では実部が a , 虚部が b の複素数を (a,b) と表すことにする.このときガウス整数とは,整数 i,j に対して,(i,j) の形で表される複素数のことである.

また , ガウス素数 (i,j) を , 自明な約数 $(\pm 1,0), (0,\pm 1), (\pm i,\pm j), (\mp j,\pm i)$ 以外の約数を持たないガウス整数として定義する .

アルゴリズム

ガウス素数の判定には、以下のエラトステネスのふるいの複素数への拡張版を用いよう. ただし、 $0 \le i \le n$ 、 $0 \le j \le n$ の範囲のガウス整数を扱い、表示の際にはi およびj の符号反転に対する対称を用いてよい。

- 1.2 次元の論理型配列 is_prime を用意する.この配列の要素 $is_prime(i,j)$ は,ガウス整数 (i,j) がガウス素数であるかどうかを示すフラグである.
- 2. 初期には $0 \le i \le n$, $0 \le j \le n$ の範囲のガウス整数を全て素数であると仮定し,対応する位置に.true. を設定する.ただし,(0,0),(1,0),(0,1) はガウス素数ではないので, $is_prime(0,0),is_prime(1,0),is_prime(0,1)$ を.false. に設定する.
- 3. 配列を順に走査する.走査中の位置 (i,j) に対応するガウス整数 (i,j) について, $is_prime(i,j)$ が.true. であれば,それはガウス素数の候補である.ガウス素数の候補に対して,以下の処理を行う.
 - ト ガウス整数の乗算が $(i,j) \times (l,m) = (il-jm,im+jl)$ で定義されることを用いて,ガウス素数の候補 (i,j) に対して,その倍数を素数の候補から取り除けばよい.具体的には, $l=1,2,\ldots$ のそれぞれに対して, $(il,jl),(il\mp j,jl\pm i),(il\mp 2j,jl\pm 2i),\ldots$ に対応する位置の is_prime を.false. に設定する.また,対称性から $is_prime(i,j) = is_prime(j,i)$ となることを用いてよい.
 - \triangleright ただし, l=1, m=0 に対応する, is_prime(i, j) は.true. に設定する(元に戻す).

これらが終了した後に最終的に,is_primeが.true.になっている位置に対応するガウス整数がガウス素数となる.